

2016 年度ラオスでの活動報告

期 間：2016 年 8 月 14 日～20 日

場 所：ビエンチャン

参加者：安部 貴之（国際委員会）、瀧澤 亜由美（国際委員会）、兵藤 透（えいじんクリニック）

ラオス人民民主共和国（Lao People's Democratic Republic [Lao P. D.R.] 以後、ラオス）の首都ビエンチャンにある Mittaphab Hospital（以後、ミタパブ病院）を訪問した。

ラオスは、東南アジアのインドシナ半島の一国であり、タイ、ベトナム、中国、ミャンマー、カンボジアに囲まれた内陸国である。人口は、約 650 万人（2015）の国で、経済的には、国連より後発開発途上国（LDC）に指定され、一人当たりの名目 GDP は 1865 US ドル（2016 年）と ASEAN 最低レベルの国である。国際通貨基金（IMF）によると経済成長率は 7%程度で高い伸び率であり、過去 20 年以上に渡りプラス成長を維持しているため、今後の経済発展が見込まれる国の 1 つと考えられている。

現在まで、ラオスの透析施設には訪問したことがなく、情報も少なかったため、今回、ラオス国内における主要透析施設を訪問し、ラオスにおける透析医療の現状を調査すること、キーパーソンとなる医師、スタッフと友好関係を築くことを目的に活動した。訪問にあつ

て、NPO いつでもどこでも血液浄化インターナショナルの兵藤透先生（えいじんクリニック院長）にも同行していただき、現地にて講演も行っていただいた。

ミタパブ病院へは、期間内に 2 回訪問して院長や透析室スタッフとの交流、透析室の見学、兵藤先先生による講演、透析液の清浄化検査を行った。

ラオスの透析施設は増加傾向にあり、現在は約 10 施設が国内で稼働しているとのことだった。詳細な数は不明だが、患者数も増加傾向にあると説明を受けた。ラオス国内で、新しく透析施設が開院するときは、ミタパブ病院でスタッフ研修を実施することが多く、ミタパブ病院がラオスでの透析医療の中心となって機能している印象だった。

透析治療は、医師と看護師で実施しており、臨床工学技士は存在しない。透析装置が故障した場合は、タイから来るメーカーを待って対応してもらっているとのことだった。透析スタッフのみなさんは透析医療に積極的に真面目であり、日本に対しても非常に友好的な印象だった。今後、さらに協力関係を深めていきたいと思った。



ミタパブ病院の外観



ミタパブ病院の透析室